

2008年2月4日

ミスミグループ本社 2008年3月期 第3四半期 連結業績を発表

—売上高・営業利益・純利益ともに過去最高を計上—

株式会社ミスミグループ本社（本社：東京都江東区、社長：三枝匡）は本日、2008年3月期 第3四半期（2007年4月1日～2007年12月31日累計）の連結業績を発表しました。主な業績数値は以下の通りです。

	2007年3月期 第3四半期	2008年3月期 第3四半期	増減率
	百万円	百万円	%
売上高	87,629	93,106	+6.2%
営業利益	12,682	13,096	+3.3%
四半期純利益	7,769	8,270	+6.4%
1株当たり四半期純利益	89.38円	93.62円	+4.7%

2008年3月期 第3四半期の連結業績ハイライトは以下の通りです。

1. 売上高・営業利益・純利益ともに過去最高を計上

- 2008年3月期 第3四半期は、売上高931億円（前期比6.2%増）、営業利益130億円（前期比3.3%増）、四半期純利益82億円（前期比6.4%増）となりました。
- 国内では輸出減速やIT・デジタル分野の在庫調整を背景に企業の設備投資意欲は減退傾向となりましたが、当社グループは新商品の販売強化、顧客ニーズに基づくプライスダウン、インターネット販売用ウェブサイトの充実化等の販売促進策を展開してまいりました。さらに国内外で顧客の求める短納期化ニーズに応える施策を進め、特に欧州・アジアの売上高を伸長させることができました。この結果、2007年4月～12月期の業績は過去最高を計上しました。

2. 機械工業系全事業部門が堅調に推移

- 2008年3月期 第3四半期の事業部門別売上高は、全事業部門で引続き堅調に推移することができました。
- 自動化学業は、年初より電子部品関連の受注が弱含みで推移する一方、自動車関連は下期から回復傾向となる中、当社グループでは構造体（アルミフレームなど）、およびマテリアル（プレート・ロッドなど）事業において積極的な営業活動が奏功したことや、中国・欧州など海外における売上増に支えられ、売上高は453億円（前期比8.5%増）となりました。
- 金型部品事業は、国内電機大手の液晶関連需要が軟調でありましたが、自動車大手の新車種投入効果が下支えとなり、また、北米、中国、タイでの自動車新規金型需要の増加などにより、売上高は255億円（前期比5.2%増）となりました。
- エレクトロニクス事業は売上高94億円（前期比7.9%増）、光関連事業は売上高43億円（前期比33.5%増）、多角化事業は、売上高84億円（前期比1.0%減：前期より連結対象外となった株マルチビッツ、および今上期より連結対象外となった株ミクリードを除く）となり、それぞれ堅調に推移することができました。

3. 2008年3月期 通期業績予想据え置き

- 2008年3月期の通期業績予想は、売上高 1,280 億円（前期比 8.3%増）、営業利益 159 億円（前期比 1.6%増）、当期純利益 94 億円（前期比微増）となり、前回（2007年 11 月 15 日）公表から変更はありません。（詳細は下記の表をご参照ください）

2008年3月期の業績予想(連結)(2007年4月1日～2008年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
通 期	128,000	15,900	16,100	9,450	106.78

【業績予想に関する留意事項】

この資料に掲載されている2008年3月期の見通し及び将来に関する記述部分につきましては、国内及び諸外国の経済状況、各種通貨の為替レートの変動、業績に影響を与えるその他の要因等、現時点で入手可能な情報をもとに、当社及び当社グループが合理的であると判断した一定の前提に基づいておりますが、リスクや不確実性を含んでおります。従いまして、これらの将来に関する記述のみに全面的に依拠して投資判断を下すことは控えるようお願い致します。実際の業績は、様々な要素により、これら業績予想とは大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。

実際の業績に影響を与える重要な要素には当社及び当社グループを取り巻く経済情勢、市場の動向、為替レートなどが含まれます。

2008年3月期 第3四半期の当社連結業績の詳細は別添の決算短信をご参照ください。

この件に関するお問い合わせ
株式会社ミスミグループ本社
経営総務室 広報・IR 担当
Tel : 03-3647-7037 Fax : 03-3647-5802
電子メール : cc@misumi.co.jp